

2018年 / 64分 / 日本 / ステレオ / 5.1ch / HD / カラー
製作 104cold / 配給 ドキュメンタリージャパン

柄本家の

Godot of the Emotos

ゴドット



柄本 明 柄本 佑 柄本 時生

撮影 山崎 裕



最高峰 演るならゴドー
柄本時生

二人で一生続ける
柄本佑

何もやらないという時間をみつけた
ということじゃないかな・・・
待つという時間・・・ 待っている人・・・ — 柄本 明

人気俳優として映画、テレビで活躍する一方で、演劇ユニット
“ET×2”を組む柄本 佑・時生兄弟。2014年、ふたりはサミュ
エル・ベケットによる不条理演劇の代表作「ゴドーを待ちな
がら」の公演に挑んだ。2017年、父親の名優・柄本明を演
出に迎えて、再びゴドーにふたりは挑戦する。その稽古場に
ドキュメンタリーカメラの名手・山崎裕が立ち会った。
演出家と俳優の関係を越え、父から子への芸の
伝承の厳しさと温かさにあふれる
“時間の記録”である。

柄本さんの禅問答のような、宇宙のような、森羅万象のような・・・
言葉や存在の有り様に戦き、その引力に否応無く惹かれます。

— 李相日 (映画監督)

俳優柄本明が、ふたりの息子の演じる芝居の稽古をつけながら、クック、クックと肩をゆらして笑っている。実に楽しそうに。そして、急に顔に両手の握りこぶしをあてて、真顔で睨む。やっぱり柄本明は、なかなか変で素敵に面白い。こんなオヤジの息子は大変だ。二人掛かりで立ち向かおうと、必死だね。

— 串田和美 (俳優・演出家)



Waiting for Godot
By Samuel Beckett



Waiting for Godot
By Samuel Beckett

戯曲「ゴドーを待ちながら」
サミュエル・ベケット

アイルランド出身の劇作家サミュエル・ベケットによる戯曲。野原に立つ一本の木のそばで、エストラゴンとウラジミールという2人の老浮浪者が、やって来る客のゴドーという人物をひたすら待ち続けながら、とめのない会話を繰り替えている。退屈だと言われたり、難解だと言われたりしながら、傑作として賞賛もされ、不条理演劇の代表作として演劇史にその名を残し、多くの劇作家たちに強い影響を与えた。1952年に出版され、その翌年パリで初演。

柄本明さんが息子たちの目の前で自らやってみせる芝居を見ながら、異才の人の元に生まれることもまた残酷だなあ、と思った。それでも息子たちは屈託もなく楽しげで、父もまた、愛おしそうに彼らを眺めている。

— 西川美和 (映画監督)

出演 柄本明・柄本佑・柄本時生 撮影・演出 山崎裕 構成・編集 五十嵐久美子
プロデューサー 柄本佑子/山崎裕製作 104 Co.Ltd. 配給 F&Kエンターテインメント
宣伝/総務 090-4029-4860 hosohiro1005@gmail.com
2018年 | 64分 | 日本 | ステレオ | 5.1ch | HD作品 | カラー

www.emotoke-no-godot.com

2019年4月20日(土)よりロードショー

特別鑑賞券発売中 ¥1,200 (税込) | 当日一般 ¥1,500 (税込) 学生・シニア・会員 ¥1,100 (税込)

渋谷・文化村交差点左折

ユーロスペース
EUROSPACE

03-3461-0211 www.eurospace.co.jp

